

秋田県埋蔵文化財センター
平成二十八年年度企画展第Ⅰ期

あき
た
齧田の原風景

「考古学で巡る鳥海山麓、にかほと由利本荘」

会期／平成二十八年四月九日～平成二十八年八月三十一日
会場／秋田県埋蔵文化財センター特別展示室

はじめに

私たちの郷土、「秋田」は、『日本書紀』斉明天皇四年（西暦六五八年）条に「罫田・淳代、二郡蝦夷」として、その名が初めて登場します。「罫田」は当時は「あぎた」あるいは「あいた」と訓よまれていたようです。

秋田県埋蔵文化財センターの今年度の企画展は、『罫田の原風景』と題し、子吉川及び雄物川流域の日本海沿岸部を対象に、発見された考古資料を近世から遡って通史的に紹介します。

第Ⅰ期は、「考古学で巡る鳥海山麓、にかほと由利本荘」として、鳥海山の麓、子吉川流域に広がる、にかほと由利本荘地域の遺跡とその出土品を紹介します。今回の展示を通して、地域の文化とそれを育んだ風土や原風景を感じていただければと思います。

近世と中世

にかほと由利本荘地方は、近世江戸時代初頭には、山形藩主の最上氏家臣であった本城氏や滝沢氏がそれぞれ平山城の本城城や平城の滝沢城を築城し、その周囲には城下町を整備して、それらを拠点として統治していました。最上氏改易後、元和九年（一六二三年）には、六郷氏、仁賀保氏などが当地方を分割して支配します。その際、滝沢城は廃城となりますが、本城（荘）城は六郷氏が改築し明治初期まで居城としていました。戦国時代には、由利十二頭と呼ばれる中小の在地領主が山城を拠点に群雄割拠していました。山根館は、由利十二頭のなかでも有力な領主であった仁賀保氏の居城でした。また、室町時代の岩倉館も在地領主の居城と考えられます。

一方、鎌倉時代の堤沢山遺跡では、奥州藤原氏時代から当地を支配していた由利氏が呼び寄せた専門職人によって、梵鐘や密教仏具が鑄造されていたようです。

当地方は、支配者が目まぐるしく変遷し、特に戦国時代には多くの在地領主が各地に分立していたことが大きな特徴でした。



岩倉館跡（北東から）



岩倉館跡遠景（北から）



山根館跡本丸



堤沢山遺跡の梵鐘鑄造遺構



堤沢山遺跡（北から）

古代く古墳時代

古代まで遡ると、これまで多くの遺跡が見つかります。低地で水田耕作を行った横山遺跡のほか、丘陵にある湯水沢遺跡や砂丘上に立地するカウヤ遺跡のように、それぞれ製鉄や製塩などの生産活動を盛んに行った遺跡、あるいは清水尻Ⅱ遺跡のように、丘陵の裾に官道を通し、その管理に関わったと考えられる遺跡など、その性格は多彩です。古代の官衙あるいは城柵であった秋田城や由理柵などが担った当時の律令政府の地域支配の一端を反映しているのでしょうか。

さらに古墳時代に遡ると、宮崎遺跡では県内ではきわめて珍しい堅穴住居が見つかっています。また、井岡遺跡では県内唯一の古墳時代の子持勾玉が採集されています。船による日本海沿いの海上交通によって古墳文化が伝来したと考えることもできるでしょう。



横山遺跡(南から)



湯水沢遺跡(西から)



湯水沢遺跡の製鉄炉



カウヤ遺跡の製塩炉



清水尻Ⅱ遺跡(南から)



井岡遺跡の子持勾玉



清水尻Ⅱ遺跡の官道側溝跡

弥生時代〜縄文時代〜旧石器時代

今から二〇〇〇年ほど前の弥生時代に遡ると、上熊ノ沢遺跡で竪穴住居が見つかっています。遺跡は台地の上にあります。おそらく周囲の低地では水田を造成して稲作を行っていたのでしよう。

三〇〇〇年近く前から一五〇〇〇年ほど前までは縄文時代です。この時代は、主に動物の狩猟を行ったり、海や川で魚や貝を捕ったり、ドングリなどを採集して暮らしていたと考えられています。ただし、一万年を越える縄文時代の間には、ムラの規模や立地、さらには暮らしぶりなどは地域や時期によって、様々に変化していたようです。例えば、縄文時代前期や中期には提鍋遺跡や上熊ノ沢遺跡のように、竪穴住居が複数存在するムラに人々が集まって生活したことがありました。これに対し、縄文時代後期や晩期には多数の住居が集まるムラが存在していたかははっきりしません。その一方で、上谷地遺跡で、トチの実を湧水にさらして食べられるように加工する水さらし場が作られたり、湯出野遺跡のように共同墓地が作られたりするので。縄文時代早期や草創期まで遡ると、菖蒲崎貝塚ではヤマトシジミを採集し、アサを栽培していた可能性もあります。しかし、これまで発見された早期や草創期の出土品はきわめて少なく、大きなムラが営まれた形跡を認めることはできません。

今から一五〇〇〇年よりもさらに以前、縄文土器がまだ作られていなかった旧石器時代では、龍門寺茶畑遺跡などで石器がまとまって見つかっているだけで、住居などは不明です。一か所に長期間住むのではなく、動物を狩りながら、移動生活をしていた様子が想像できます。



上熊ノ沢遺跡の縄文中期竪穴住居跡



菖蒲崎貝塚の貝層



菖蒲崎貝塚(南から)



上谷地遺跡の水さらし場



上谷地遺跡(南西から)



湯出野遺跡の墓地

今回のおわりに、今回の展示では、にかほ市由利本荘地区における近年の発掘調査成果を主に紹介しました。ここで紹介した遺跡や出土品は、これまでの成果のごく一部に過ぎませんが、御覧になった皆さんが「齧田の原風景」を少しでも体感していただければ幸いです。

平成二十八年年度企画展第I期リーフレット
齧田の原風景

考古学で巡る鳥海山麓、にかほ市由利本荘

平成二十八年四月

秋田県埋蔵文化財センター

秋田県大仙市払田字牛嶋二十番地

電話 FAX 〇〇一八七(六九) 三三三〇
〇〇一八七(六九) 三三三〇